

①気に入らない者を集団となって排除しようとする人間の罪

「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない」(22)、パウロに対して人々はそう「わめきたて」(23)しました。イエス様に起こったことを思い出します。扇動されて駆り立てられた時に起きる人間の罪の姿です。このところ、私たちの国でも、ある人のしたことを巡って社会全体が騒然となる出来事が続きました。そして、その始まりも結末も、マスメディアの流す情報とその流し方に影響されている面が少なくなかったように思えます。しかし、ここでマスメディアの問題性を言いたいではありません。扇動に乗りやすい人間の姿とその罪の大きさを思うと共に、その被害を受けた当事者であるパウロが示した意外な姿に注目したいと思います。

②そのひどい仕打ちをもろに受けてもはね返したパウロ

聖書は人間の罪の事実を記します。しかし、ニヒリズム(悲観主義)の書物でもありません。それは今日の箇所のパウロを見れば分かります。彼は「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない」と責められても動じません。今日の箇所の後半では、深刻極まりない場面なのに、パウロの皮肉な言動で状況が一転して、相手に起こる混乱を面白く思うてしまう場面が3つ出て来ます。「自分はローマ帝国の市民権を持つ」とパウロに言われて千人隊長がうろたえる場面、大祭司から口を打たれかけたパウロが「ひどい人物があなたたちの指導者だな」と揶揄する場面、そして「復活はあると言ったら攻撃された」とパウロがわざと言って議場が混乱してしまう場面です。

聖書は私たちに、ただ神様の前に正しく真っ正直な人であれ、といったことを教えているだけの書物ではないのです。それは、真面目な捉え方ではあるけれども、このパウロの言動の説明までは含めていません。パウロは負けていません。回りの人々が幾らひどいことをしても、その状態に絶望したり、相手を恨んだり、神様に文句を言ったりしていません。それはなぜか? 私たちの罪のためにひどい仕打ちを受け、十字架につけられ、そうして、死も生も支配し給う復活の主、赦しの神、イエス・キリストを信じて生きるようになったからです!